

令和7年度 学校評価書

室戸市立羽根中学校

【学校教育目標】 自己実現と他者貢献
【研究主題】 心の豊かさ・学ぶ意欲をもった、たくましい生徒の育成 ～生徒を主語に「指導」から「支援」へ～

評定（A：目標を十分に達成）（B：ほぼ達成）（C：やや不十分）（D：改善を要する）

	中長期学校経営目標 【R6年度～R8年度】	短期目標 【今年度の具体的な取組】	評価項目 【今年度の取組の評価指標】	達成状況	自己 評価	改善 方策	関係者 評 価	学校関係者評価
確かな学力	◇全国学力・学習状況調査結果が全国平均＋3P以上 ◇高知県学力定着状況調査結果が県平均＋3P以上 ◇学校評価の「確かな学力」に関する学校関係者評価がA	1 研究主題に沿った授業づくり (1)「学ぶ意欲を引き出す」ための授業スタンダードに基づく授業改善 ①「めあて・課題」「まとめ」の提示の徹底 ②生徒同士の話し合いや学びあいを設定 ③「ふり返り」の時間の確保 2 ICT活用についての研修等 (1)校内研修やチーム会の取組を通して、教員のICTを活用した指導技術の向上を図るとともに、授業や学校行事、家庭学習におけるタブレットの有効な活用について研究する。 (2)ICT活用について教員用のアンケートを作成・実施し、その結果を分析する。	1 研究主題に沿った授業づくり (1)全国学力・学習状況調査の結果が全国平均以上 (2)高知県学力定着状況調査の結果が県平均以上 (3)学校評価の「確かな学力」に関する関係者評価がB以上 (4)授業アンケート(生徒)強肯定「めあて・課題」95%以上「まとめ」70%以上 (5)授業アンケート(生徒)強肯定「対話に関する」項目80%以上 (6)授業アンケート(生徒)「ふり返り」の実施強肯定60%以上 2 ICT活用についての研修等 (1)授業評価アンケートでICT活用が強肯定で80%以上 (2)教育DXに関する校内研修を年4回以上 (3)各学期毎に課題型持ち帰り学習を1回以上実施	1 (1)全国学力学習状況調査(全国比)3年国-2.2数+15.7理IRT+33 (2)高知県学力定着状況調査(県比)1年国+3.9社-7.1数+6.3理+4.4英+10.02年国-1.0社-14.8数-5.7理-4.7英-7.6 (4)授業(生徒)アンケート (ア)「めあて・課題」強肯定 89.5% 「まとめ」の実施 強肯定 82.9% (イ)対話の設定 強肯定 81.8% (ウ)「ふり返り」 強肯定 76.5% 2 ◇教育DX研修1学期2回3学期2回実施 ロイノートの操作研修やグーグル内のアプリケーションの操作研修等も実施 生成AIを用いた授業活用方法も夏休みに研修を実施 ◇全教科1学期中に持ち帰り学習を実施、総合的な学習の時間や道徳での振り返りや調べ学習で持ち帰りを行った学年もある。 ◇タブレットの授業内での活用が定着されてきており、タブレットを用いて自分の意見をまとめたり、生成AIを効果的に用いて課題解決を図ろうとする生徒もいる。 ◇ICT活用についての学校評価アンケートで強肯定73.4%肯定群95%	B	1 ・学力調査の結果より基礎基本の定着、資料の読み取り、自分の考えの正確な表現の改善の具体策を考え取り組んでいく。 ・「めあて・課題」の提示では多くの教員が授業改善に努めているが、数値として表れていない。取組の意義等を共有し、確認し続けていく必要がある。 2 ・ICTの有効活用については、教育DX指定事業を活用し質の向上を目指す。	B	・学力テストも大切ですが、個人差もあると思うので、個々の学力向上が全体の学力向上につながるのではないのでしょうか。 ・学力調査等の結果もほぼ達成していると思います。生成AIやタブレットも有効に活用できていると思います。 ・小規模校なので単純にテストの点数だけで全国と比べるのは無理がある。小規模校ならではの一人一人の学力定着状況に沿った取組がとれているなら、全国平均よりもそちらを優先して評価したいと思います。
健やかな体	1. 健康教育 ◇朝食を毎日食べる生徒の割合100% ◇学校評価「健やかな体」に関する評価がA 2. 体力向上と運動習慣の確立 ◇全国体力・運動能力・運動習慣調査結果が県平均以上 ◇「体育の授業は楽しい」「運動が好き」100% ◇家庭での運動する時間や機会の増加	1. 健康教育 (1)生活調査、メディア調査の実施・分析と課題への指導及び家庭・地域への啓発(保小中連携) (2)関係機関や地域学校協働本部を活用した食育の取組と取組成果の周知 (3)年3回の生活調査と年2回のメディア調査の取組啓発と結果の公表 2. 体力向上と運動習慣の確立 (1)生徒が主体的に活動できる体育の授業づくり(単元毎ICTを活用) (2)体育大会に向けた取組の実施 (3)昼休みの体育館利用の呼びかけ (4)生活リズムの取り組みに合わせ、家庭の運動時間も加え、生涯スポーツにつなげる (5)体力・運動能力調査(県・全国)の総合評価D,Eの生徒を1ランク上げる	1. 健康教育 (1)朝食を毎日食べる生徒の割合95%以上 (2)「生活習慣の大切さが理解できた」割合95%以上 (3)学校評価の「健やかな体」に関する評価がA (4)「朝食づくり」「自分で作るお弁当の日」「郷土料理づくり」等の実施と取組成果の周知100% 2. 体力向上と運動習慣の確立 (1)全国体力・運動能力・運動習慣調査結果が県平均以上 (2)「保健体育授業は楽しい」肯定的評価100% (3)「運動が好き」の項目100% (4)体育大会の達成感の向上 (5)昼休み体育館利用人数→全校生徒半数以上	1.健康教育 (1)生活習慣の大切さが理解できた割合70% (朝食摂取率 89%) (4)「朝食づくり」「自分でつくるお弁当の日」「郷土料理づくり」等の実施と取組成果の周知100%。 ◇婦人会・室戸市ヘルスメイトに依頼。 ◇生徒の取組の様子を撮影。活動後は振り返りの実施と生徒アンケートの集計分析し報告。 ◇お弁当づくりの目的を再確認し生徒の参加率を向上させたい。 ③保小中連携:羽根公民館に協力を依頼し、常会長を通して羽根地区全体にメディア調査に関するお便り・リーフレットを計3回配布。9月に保小中連携講演会を企画実施。 ◇学校・家庭で共通認識をもち生活改善に取り組めるような場面で啓発を行った。 ◇朝食に焦点をあて、生活調査実施前に朝食に関するお便りを計2回配布した。 2. 体力向上 (1)各単元でICTを活用し主体的な授業づくり肯定的評価100%達成 (2)体育行事等で生徒が主体的に活動できる集団づくりや場の設定ができた。 (3)授業の中で体力向上につなげた運動や活動(こうちの子ども～プログラムから)を取り入れた。	B	1 朝食が主食だけの生徒が多いので内容の改善を図る取組を実施する。 お弁当づくりの目的を再確認し生徒の参加率を向上させる。メディアの利用時間削減に向けての取組を工夫する。 外部の方と協力した取組を継続する。 2 運動習慣は体育の授業だけでは付かないので小中高と連携して運動慣れや運動することを続けられるような取組の工夫をしていく。	B	・朝食だけでなく食生活全体の大切さをもっと考えてバランスの良い食事ができるように家庭でも話し合うとよいと思います。 ・体育大会も全体でよく取り組んでいて大変よかったです。 ・基本的生活習慣の構築には家族の頑張りに期待したいです。
不祥事防止等	◇教育公務員としての高い志を持った教職員 ◇相互の信頼あつての教育との考えをもった教職員 ◇校内不祥事件数0件 ◇遠慮無く相談し合える職場風土 ◇凡事徹底	(1)実践的な服務研修の実施 (2)不祥事チェックリスト実施 (3)服務通知ごとの周知 (4)転入者や若年教員を支える風土作り (5)平常時の時間管理やふさわしい服装など基本的な職務への向き合い方の整備	(1)校内研修で実践的な服務事例研修の実施(年2回) (2)毎学期ごとの不祥事チェックリストの実施(年3回) (3)県教委からの服務通知ごとの周知徹底(随時) (4)教育活動の実施に伴う特徴や留意点等に関し、転入者への丁寧な説明や相談窓口の確認(随時及び学校行事ごと) (5)計画的な業務管理や保護者、来校者への適切な対応など信頼される職場作りへの取り組み(随時) (6)不祥事防止委員会の設置(企画委員会内)及び不祥事防止強化月間(8月)	(1)8月、1月に実施した (2)チェックリスト3回目実施・各不祥事チェックリスト項目の紹介した (3)服務通知随時周知した (4)職員会等で確認した (5)随時実施した (6)8月実施した	c	具体的な取組や評価指標はすべて実施したが10月下旬に教員による不祥事が生じた。その後は、保護者や地域の方の意見も反映しながら不祥事防止の年間計画や研修の中身、校内ルールの見直しを実施し、教員で共有し服務規律の意識の向上を図った。今後は、不祥事防止対策と同時に働き方改革をより推進し、心身の健康維持に努める。	C	・残念な出来事でしたが、他の教員の方たちはとても良い感じでまとまっており、関係性もよいと思います。 ・自己評価を尊重します。 ・昨年の不祥事により重要課題となっていると思います。働き方改革と一体して先生方の心身の健康を守る取組を徹底していってください。

	中長期学校経営目標 【R6年度～R8年度】	短期目標 【今年度の具体的な取組】	評価項目 【今年度の取組の評価指標】	達成状況	自己 評価	改善方策	関係者 評 価	学校関係者評価
豊かな心	1. 規範意識の醸成と自尊感情の育成 ◇「学校の規則を守っている」100% ◇「道徳の勉強は好きだ」100% ◇「学校が楽しい」100% ◇「自分にはよいところがある」100% ◇道徳の授業では自分の考えを深めたり話し合ったりする活動に取り組んでいる」の強肯定の割合の向上 2. 生徒指導上の諸課題への対応・支援 ◇SC参加の校内支援会月1回実施の情報共有や支援方法の共有 ◇夢プロによる安心・安全な学級・学校づくりと自己肯定感の向上 ◇いじめ防止の取組や校内研修、魅力ある学校づくりでの教員の指導力の向上	1 規範意識の醸成と自尊感情の育成 (1) 考え議論する道徳の計画的実施と授業公開 (2) 夢プロの実施 2 生徒指導上の諸課題への対応・支援 (1) 生徒指導の4つの視点を重視した行事・学級・教科経営 (2) 全教員とSCによる全生徒個別面談の実施 (3) 定期的な校内支援会の実施とSCや地域組織の活用 3 不登校の未然防止や現状への対応 (1) 夢プロの月毎の重点目標の設定に生徒会の意見も取り入れ組織的な目標とする。不登校の生徒にも夢プロの取組や活動を伝え自立支援に繋げる。 (2) 2回目のQUアンケートで1回目と比べて学校生活不満足群の生徒を減らす。また校内支援会で気になる生徒の支援についての取組を検証して取組を改善する。 4 いじめへの対応 (1) いじめ防止基本方針に基づきいじめ防止に関する取組で未然防止に努め年間2回のアンケートや定期面談、支援会での情報などにより早期発見早期指導を徹底する。また、いじめの重大事態化防止に向け、トラブルを把握した時点で管理職及び関係教員により組織的に対応する。	1 規範意識の醸成と自尊感情の育成 (1) 道徳意識調査の強肯定率 ①「道徳の勉強は、好きだ」80%以上 ②「家庭で取り組む高知…」50%以上 ③「自分にはよいところがある」70%以上 2 生徒指導上の諸課題への対応・支援 (1) 学校生活アンケート肯定的回答率 ①「学校が楽しい」80%以上 (2) 学校評価(生徒) 肯定的評価 ①「私はひとりの大切な人間である」70%以上 3 不登校の未然防止や現状への対応 (1) 2回目のQUアンケートで1回目と比べて学校生活不満足群の生徒を減らす 4 いじめへの対応 (1) 年間2回のアンケート実施 (2) 学校生活アンケート「学校が楽しい」肯定的回答率の割合を90%	1 (1) 道徳意識調査の強肯定率「道徳の勉強は好きだ」 強肯定47.6%肯定90.5% 「自分にはよいところがある」 強肯定47.6%肯定85.7% 「家庭で取り組む高知…」 強肯定28.6%肯定57.2% 2 (1) 学校生活アンケート肯定的回答率①「学校が楽しい」95% (2) 学校評価(生徒) 肯定的評価 ①「私はひとりの大切な人間である」87% 3 不登校の未然防止や現状への対応支援会において定期的に気になる生徒 についても話し合いができた。次年度も時間を確保していき対応を取り組む。 4 いじめへの対応 ◇定期調査による早期発見及びいじめ防止基本方針に基づいた組織的な対応をする。 ・学校生活アンケートを7月・10月・2月の年3回実施できた。 ◇学校生活アンケート「学校が楽しい」肯定的回答率の割合 ○90%→87.5%→95.2%(+7.7) ・前年度より+5%に到達できた。2回目より肯定群が増加した。	B	1 考え議論する道徳の時間を目標して、教材研究、分析会を工夫していく。 2 学期中に家庭への道徳便りを発行し、さらに自尊感情の育成に資する内容について紹介していく。 2 新生徒会執行部の育成とともに、「夢プロ」の取組を工夫改善していく。魅力ある学校づくりの取組を活用していく。 3 今後も支援会の時間を確保していき対応に取り組む。 4 年3回の学校生活アンケートやQUを活用しいじめの早期発見、組織的な対応につなげる。	B	・不登校への対応も大変よかったと考えられます。いじめも早期に発見して対応できればより結果が出ると思います。 ・生徒が自分の可能性を見つけ、自由な発想でプロジェクトを企画・立案・解決する力＝夢プロですか？中高生の発案で地域の食材を使つての商品開発などに携わるなどにあたるかな？地域愛を育てる取組を頑張ってほしいです。
	1. 働き方改革の推進 ◇年間を通じて業務改善に取り組み、時間外在校等時間月45時間以上教職員1人あたり3ヶ月以内に抑える 2. 教職員のメンタルヘルス対策 ◇気軽に相談できる職場体制の充実 ◇繁忙期に向けて計画的な業務管理 3. 防災を中心とした安全教育・安全管理の充実 ◇当事者意識が高まる防災・安全学習 4. コミュニティースクール ◇保護者や地域と協働的な活動の充実 5. 特別支援教育の推進 ◇すべての子どもが分かるできる授業づくりガイドブックの重点事項の肯定的評価80%以上 6. 部活動の充実と運営の適正化 ◇ガイドラインや部活動方針を遵守し、保護者や地域に応援される部活動運営	1. 働き方改革 (1) 教員の意識向上を図る働き方改革に関する校内研修実施 (2) 定時退校日の設定・最終退校時刻の呼びかけ (3) 学校行事・会議の効率化と年間授業時数の管理徹底 2. メンタルヘルス (1) 教職員本人のセルフケア促進 (2) 職場内外のケア体制の整備 (3) 良好な職場環境の整備 3. 学校運営協議会 (1) 学校運営協議会委員の来校機会設定 (2) 羽根地区の特性を活かした協議会の検討 4. 防災教育を中心とした安全教育・安全管理の充実 (1) 系統的・体系的な防災教育の実施 (2) 関係機関等と連携・協働した取組の実施 5. 特別支援教育の推進 (1) 教職員研修実施 (2) 個別の教育支援計画、引き継ぎシート等を活用した校内支援会の実施 6. 部活動の充実と運営の適正化 (1) 保護者の協力により現地集合解散の取り入れ (2) 他校の指導法等を参考とし練習手法を改善する。	1. 働き方改革 (1) 全教職員の時間外在校勤務時間月間45時間超の月を年間3ヶ月以内、月60時間以内に抑える。 (2) 定時退校日12日以上・時間外在校時間月45時間以内の教員が増加している。 (3) ICTを活用した会議の数増加・3月卒業式以降授業短縮を実施 2. メンタルヘルス (1) セルフケアの具体の紹介のリーフレット配布(1学期) (2) 教員のストレスチェック年2回 (3) 定期的なSC訪問の活用の声がけ・外部医療機関の紹介(1学期) 管理職と教職員の面談(年2回) 3. 学校運営協議会 (1) 学校運営委員会の開催(学校運営協議会年3回) (2) 学校関係者評価・保護者地域との連携A 4. 防災教育を中心とした安全教育・安全管理の充実 (1) 系統的・体系的な防災教育→年間5時間以上の防災学習の実施 (2) 危機管理マニュアルの内容見直し、教職員で共有→1学期中に見直し実施→教職員で共有し安全教育・安全管理を徹底できた。 (3) 毎月のあいさつ運動の実施、夏季休業期間の夜間補導、面談時の登下校時の安全確認の各実施率100% 5. 特別支援教育の推進 (1) 支援の方法について職員研修の実施(1学期) (2) SCを交えた校内支援委員会の実施(月1回以上) (3) 校内支援委員会後の記録配付と内容共有(毎月) 6. 部活動の充実と運営の適正化 (1) 保護者会で協力を仰ぎ、昨年度以上の引率時間の削減 (2) 参考となる指導法について常に研鑽し、日常練習に取り入れられた。	1. 働き方改革 (1) 月間45時間以内73%月60時間以内91% (2) 定時退校日12日以上実施・時間外在校時間月45時間以内の教員が増加した。 (3) ICTを活用した会議の数は増加した。3月卒業式以降授業短縮を実施 2. メンタルヘルス ・教員のストレスチェックの紹介と管理職と教職員の2回目面談を実施し、SC訪問の活用の声がけも行った。 3. 学校運営協議会 ・学校の現状や可能な活動を話合うとともに、学校の様子を知ってもらうために、行事への参加を呼びかけた。 4. 防災を中心とした安全教育・安全管理の充実 各学期ごとに安全点検を実施、避難訓練も3学期の実施予定を含めれば目標値達成。地域との連携においては、今年度避難道清掃活動が実施できなかったことから、次年度実施できるよう計画する。 5. 特別支援教育の充実 (1) 個別の指導計画で、支援の方法を確認できた。 (2) 校内支援会は11回実施。SCやSSWの助言を参考に気になる生徒の支援方法を全職員で共通理解した。 (3) 生徒記録を活用し、生徒支援方法について検討することができた。 6. 部活動の充実と運営の適正化 (1)、(2)ともに十分取り組めていない。	B	1 ・1か月の出退勤表の提出により進捗管理の継続 ・定時退行日月2日以上継続 ・3学期以降の短縮授業の継続 2 メンタルヘルチェック年2回、管理職面談年2回以上の継続 3 学校運営委員会の内容の充実を図る。 4 今年の取組の継続と地域との連携において清掃活動と生徒会活動を関連させていくことも考える。 5 個別の支援計画を共有し組織的に支援していく。 支援会を定期的に実施しSCやSSWの指導助言を支援に生かしていく。生徒記録の活用の継続。 6 今後は、部活動の地域移行の実現を目指して体制を整えていく。	B	・全体的によく取り組めていると思います。もう少し地域の方との連携ができる方法が何かあればよいですね。 ・あいさつはよくできています。 ・1、2については持ち帰りの残務を減らさなければ根本的な解決にならないと思うので、引き続き取組を維持してほしいです。